



# Close Up YNU 2014

大学との「絆」をより深める、コミュニティマガジン

YNUの地域連携

地域に開かれた大学へ

## 地元の自治体と積極的に連携し、 地域に根ざした大学の運営を

YNUは開かれた大学として「知」の還元はもとより、  
場や施設の提供を通して地域との連携を進展させています。その一端をご紹介します。



### 横浜市と包括協定を締結

**2** 013年6月5日に「大学と連携した地域社会づくり」を掲げる横浜市との間で『都市及び地域の再生・活性化に係る連携・協力に関する包括協定』を締結しました。

これにより、教育・文化、健康・福祉、環境・資源、まちづくりの政策で協力し、横浜市内における都市及び地域社会の課題解決及び大学の教育・研究機能の向上を図り、地域社会の発展

とともに構築していくことになります。

横浜市各局と各部局間では、既に60年以上、旧制教育機関まで遡れば130年以上に及ぶ様々な連携に取り組んでおり、平成25年度も学内認可保育所の設立、ひきこもりがちな児童生徒の家庭への学生派遣等が行われました。

今後は横浜市全市的な視点から更に多くの分野で新たな連携が期待されます。

上/ 林 文子横浜市長、鈴木邦雄学長  
下/ 鈴木伸哉副市長、鈴木 隆副市長、山田 均理事、湊 公夫総務部長、  
林 文子横浜市長、鈴木邦雄学長



### 地元、保土ヶ谷区長から 感謝状を授与されました！

**地** 域実践教育研究センターの保土ヶ谷区への地域活動に対し、2014年2月19日、保土ヶ谷区長から感謝状が授与されました。

保土ヶ谷区では、福祉、保健医療、生涯学習、文化、スポーツ、防災防犯、環境整備、街づくり等の分野で地域活動を行い、その功績が顕著な者に対して表彰を行っています。今回の表彰は、地域実践教育研究センターの地域に根ざした課題解決を担う人材育成に尽力し、その実践教育を通じて保土ヶ谷区への地域活動に大きく貢献したことが評価されました。



鈴木和宏保土ヶ谷区長から佐土原聡地域実践教育研究センター長に授与された感謝状

### 災害発生時に 学内施設を補足的避難場所として提供

**Y** NUと横浜市保土ヶ谷区との間で、2013年10月23日、防災協力協定が締結されました。その内容は、保土ヶ谷区内で発生した大規模な災害において、区長の要請に基づき、本学が一時的に学内施設を補足的避難場所として提供するというもので、これにより地域防災拠点の追加指定としての補足的効果が期待されます。運営は区職員が実施しますが、本学への学生ボランティアの支援要請が協定に盛り込まれるなど、大学周辺の地域の皆さんとともに、大災害に対し十分な備えを実施していきます。

また、2014年4月1日に教育人間科学部附属横浜中学校体育館も、南区の補足的避難場所として提供する協定を締結しました。



本学が避難場所として提供する施設  
左上/体育館  
左下/第1食堂  
右/教育文化ホール

## 「YNU大澤奨学金」がスタートしました

本学の卒業生、大澤様からのご寄付により、「YNU大澤奨学金」が設立されました。この制度は、優れた人材育成を目的とした給付型の奨学金で、平成25年度からスタートし、今後30年間にわたって募集が行われる予定です。

2013年8月2日、「平成25年度YNU大澤澄子奨学金感謝状贈呈式及び目録贈呈式」が行われ、25年度は4名の学生が第一期奨学生として採用されました。

感謝状贈呈式では、鈴木学長から寄附者である大澤澄子様へ感謝状と記念品が贈呈され、感謝の言葉が贈られました。続いて行われた目録贈呈式では、鈴木学長から奨学生一人ひとりに目録が授与され、お祝いと激励の言

葉が贈られました。次いで、奨学生より、感謝の言葉と今後の抱負が述べられました。

### 【奨学金の概要】

- 対象者 …………… 学部の正規課程に在籍する、2年生の学生(日本人、永住者等。留学生除く)で、成績優秀でかつ経済的理由により修学が困難な者
  - 採用人数 …………… 4～5名
  - 奨学金の額 …… 月額50,000円
  - 支給期間 …………… 正規の最短修業年限まで
- ※通常は学部4年卒業まで支給。ただし、本学大学院修士(博士前期)課程に引き続き進学する場合は、修士(博士前期)課程2年間も支給。継続時に学力審査あり。



感謝状贈呈式及び目録贈呈式の様子

## 女性研究者の再チャレンジを支援する「みはるかす研究員」制度スタート

子育てや介護などにより研究を中断した女性研究者の再チャレンジを支援する本学独自の「みはるかす研究員」制度が2013年10月1日にス

タートしました。

「みはるかす研究員」制度は、子育てや介護などにより研究中断を余儀なくされたものの、研究再開を希望する優れた女性研究

者に研究の機会と場所を提供して、次のステップへ進めるよう支援することを目的としています。

「みはるかす」の命名は、若者たちが新しい時代を創り出す夢と希望を歌っている本学の学生歌「みはるかす」からとったもので、女性研究者が未来を

みはるかして進んでほしいとの願いが込められています。

本学では、男女共同参画の重要性が高まる中、2013年4月に教育研究機能を備えた「男女共同参画推進センター」を設立し、学内および地域と連携しながら様々な取り組みを進めており、「みはるかす研究員」制度の導入もその一環です。

2013年10月1日、短時間勤務の非常勤教員としての「みはるかす研究員」に辞令が交付されました。公募で採用された4名は、全員が博士号取得者(文系1名、理系3名)であり、6か月間、本学の受け入れ教員の研究室で各自の研究に取り組みました。

2014年4月1日、第1期「みはるかす研究員」のうち、1名が他の国立大学の助教として常勤職につき、2名が今年度春学期の公募に応募され、引き続き採用となりました。

そして新たに2名が採用され、計4名に男女共同参画推進センター長である山田均理事(国際・評価担当)・副学長から、辞令が手渡されました。



上 / 2013年10月1日  
みはるかす研究員4名と  
山田男女共同参画推進  
センター長、関係者  
下 / 2014年4月1日 同上

## 大学院国際社会科学府シンポジウム

## 「アジア新時代におけるパートナーシップ」で姜尚中教授（聖学院大学・現学長）が講演



上／姜尚中氏による基調講演  
左／パネルディスカッションの様子



平成25年度4月に設置した大学院国際社会科学府国際公共政策EP（教育プログラム）の始動を記念し、神奈川県および横浜市の後援を得て、1月28日に横浜市開港記念会館にてシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、学内外から約150名が出席し、「アジア新時代のパートナーシップ」と題し、第一部では姜尚中教授（聖学院大学）による基調講演がなされました。姜教授は、現在のアジアが協力関係を構築する上で直面する課題について、我々はどのよ

うに対処すべきかについて講演されました。

また、基調講演に引き続き、第二部としてパネルディスカッションを行いました。パネリストとして、小林誉明、氏川恵次、ダニエル・ヘラーの各准教授を迎え、アジア新時代とよばれるこれからの時代に日本はアジア諸国とどのような関係を築くべきかという問題意識に基づき、それぞれ開発協力論、経済学、経営学といった異なる視点を提示しながら意見を交わしました。ディスカッション終了後はフロアからも多くの質問が寄せられ、活発な討議が行われました。

## 神奈川県初！ 学生発案型授業スタート！

学 生が企画・運営する学生発案型授業「大学生からの社会人基礎力～企業課題を通じた実践的授業～」(担当教員：大学教育総合センター安野舞子講師)が、2014年4月よりスタートしました。これは学生が授業を企画・運営することにより自ら学ぼうとする意欲を増進させることを目的として学生が発案したものです。学生自らも教鞭をとり、単位も認定されます。

授業では社会人基礎力の一部である「現状から問題を発見し、仮説検証によって原因を分析することで、改善策を考察する」と

いう一連のプロセスを学ぶため、前半では課題解決に必要なスキルを学び、グループワークを通して知識を身につけます。後半では、地元企業(相鉄ホールディングス)の協力を得て、企業から提示された課題を、前半の授業で身につけた知識を活かして改善策を考察します。最終的にプレゼンテーションを行い、企業から改善策に対するフィードバックをしてもらいます。学生・授業者が互いにコミュニケーションを図り、双方向に展開される構成となっており、学生の意見を取り入れた授業改善の取り組みとして神奈川県

県では初めての試みであり、全国でも例の少ない先導的な取組です。



上／問題解決について講義をする学生  
右／グループワークを中心に進む授業

## 理工学部生が日中韓3カ国大臣会合ユースフォーラムに参加



日中韓3カ国の参加者が一同に会する機会となった

2013年5月5日、北九州で開催された「日中韓3カ国大臣会合ユースフォーラム」に、日本の青年代表の一人として理工学部建築都市・環境系学科1年(当時)の草間由紀子さんが参加しました。

本フォーラムは、日本、中国、韓国の環境行政のトップが集まる「日中韓3か国環境大

臣会合」と並行して開催され、3カ国から集まった青年代表計15名が「若者の環境活動」、「環境的に持続可能な都市づくり」をテーマに事例発表やグループ討議を行いました。翌6日の大臣会合では、ユースフォーラムの成果について韓国の青年代表が各国の大臣の前に報告を行いました。

平成 25 年度に独創的な業績を発表した若手研究者に贈られる「奨励賞」を受賞した近藤絢子准教授と、長年、都市交通の研究に従事され、メディアにも多く取り上げられている中村文彦教授の研究をご紹介します。

## 超高齢社会の課題解決のヒントを

国際社会科学研究院准教授 近藤絢子

2013年時点で、日本の人口に占める65歳以上の割合は24.1%。4人に1人が65歳以上という社会がもうすぐそこに近づいています。すでに世界一高齢化が進んだ国になってしまった日本は、これから先例のない多くの問題に直面していくことになります。

たとえば、財政の問題。社会保険料や税金を納める現役世代の人口が減っていくなかで、いかにして年金や医療保険制度を維持していくか。女性労働力の活用や、生産性向上によってカバーするなど、様々な方法が議論されていますが、一つの方策と

して「現役世代」の幅を広げてしまう、というのがあります。「高齢者」になる年齢をひきあげてしまうのです。

このための法律のひとつが、私が今研究している「高齢者雇用安定法」です。2006年と2013年に改正され、65歳までの継続雇用を義務づけることで、実際に60代前半の就業率を引き上げる働きがあったと考えられています。ただし、法律改正前であれば何らかの理由で雇用されなかったであろう人まで強制的に雇用継続させることによって、どんな副作用が生じているのかははっきりわかっていません。様々な可

KONDO Ayako

大学院国際社会科学研究院  
准教授

専門分野：労働経済学、公共経済学



能性をひとつひとつ、地道にデータで検証していくのが今の私の研究です。

たとえば、もし、若者の雇用が奪われているとすれば、若年人口の減少を埋め合わせるための法律が逆に若年労働力の有効活用を妨げていることになり、本末転倒になってしまいます。一方で、本当に若者の雇用が奪われているのかどうか、きちんとデータで裏をとることなしにあれこれ論じて、すべて仮定の上の話でしかないのです。客観的なデータに基づいた政策立案のために、ささやかでも私の研究が役に立つといいなと思っています。

## サステナブルな都市交通の実践的研究を通して

都市イノベーション研究院長・教授 中村文彦

サステナブルとは必ずしも環境の面だけではなく、社会的にも経済的にも持続可能であることを意味します。都市に住むすべての活動機会をサポートし、導入、運営、維持管理に莫大な費用を要することなく、かつ環境にもやさしい都市交通システムを研究しています。

都市交通という鉄道や道路をイメージする人が多いようですが、人々の移動のための手段として着目すると、徒歩、自転車、バス、路面電車、渡り船など様々な交通手段があり、研究室ではこれらの交通手段に着目しています。

2011年から運行を開始した学内の路線バス、2013年から本格実験を開始した学内の自転車シェアリングシステムの導入に

ついても微力ながらお手伝いをさせて頂いていますが、実際の現場で学ぶことに、昔からやりがいを感じています。

世界中の特徴的な都市交通システムの調査、事例評価、日本への応用可能性研究についても積極的に取り組んでいます。バスを鉄道のように定時性の高い大量輸送システムに仕立てているBRT (Bus Rapid Transit: バス高速輸送システム)の事例調査にもいち早く取り組んできました。(写真はコロンビアのボゴタ市のBRTシステム"Transmilenio")。

都市交通は、都市活動を支えるもので、都市の活動が本源的な需要であれば、移動は派生需要とみなします。どういう未来都市を目指すのかに基づいて、あるべき都市交通システムが形づくられていくものです。その意味でも、都市像が明確に描かれないままの24時間バス運行提案について

コロンビアのボゴタ市のBRTシステム"Transmilenio"



は、徹底的に反論をしてきました。

高齢化が進行する中で、人々が健康に暮らせるまちづくりをめざし、そこに求められる都市交通を提案していきたいと思います。

COI サテライト拠点として採択され、今後は、Smart & Multi-Modal交通システムをキーワードに研究を深めていきます。情報通信技術を活用した賢さ、そして多様性を活かし、未来の都市を支えていければと考えています。



NAKAMURA Fumihiko  
大学院都市イノベーション  
研究院長・教授

専門分野：都市交通計画、  
交通施設計画、都市計画、  
地域計画

YNU 校友会の  
お知らせ

## 「横浜国立大学校友会」が発足

# みんなが横国、 I am YNU.

母校をさらに輝かせるために！  
2014年10月、学部・大学院を超えて  
全学一体の「横浜国立大学校友会」がスタートします。

### なぜ、いま校友会なのか。

横浜国立大学校友会（YNU 校友会）は、本学がグローバル時代に対応した「実践的学術の国際拠点」として輝きを増すために設立し、卒業生、現役の学生、現職の教員・職員を会員とします。各学部や大学院の専門性、OB・OG と現役という年齢差、留学生と日本人という国籍などの壁を越えて、横断的な絆を強めることで、総合力を発揮させ、社会への情報発信力を高めることが目的です。

### 主な事業内容

#### 在校生への キャリア教育の連携

キャリア教育講座、個別就職相談、  
ビジネスプランコンテスト支援等

#### 校友会会員どうしの 交流推進

ホームカミングデーを大学・校友会  
の共催、若手校友会の開催

#### 真のグローバル人材 育成での協働

アウェーで戦える人材育成を目指し、  
海外提携校と連携した短期留学生の  
相互派遣・インターシップ協働

#### 海外交流会、地域交流会、 異業種交流会を支援促進

海外交流会、留学生交流会、地域交  
流会、異業種交流会の戦略的立ち上  
げと開催を支援促進

#### 学長からのメッセージ

#### ひとりひとりの力を校友会に

本学は、一つのキャンパスにすべてが協働した教育研究を展開していることを特色としています。校友会の発足により、産業界・官界・教育界などで活躍されているOB・OGの皆様が従来同窓会の枠を越え、力を合わせることで、本学の実践的で国際性のある研究と人材育成に貢献していただけることを大いに期待します。



国立大学法人 横浜国立大学長 鈴木邦雄



横浜国立大学  
校友会

YNU 校友会の発足と同時に WEB サイトも公開予定。最新情報をお伝えします。

▶ [www.koyukai.ynu.ac.jp](http://www.koyukai.ynu.ac.jp) (2014年秋オープン予定)

お問い合わせ：横浜国立大学校友会

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1 総務部広報・渉外課 校友会設立準備室

TEL : 045-339-3177 FAX : 045-339-3178 e-mail : koyukai@ynu.ac.jp

## 「常盤台キャンパス ひとやすみマップ」を作成しました

平成25年度地球環境計画演習(秋学期3年次～)課題「YNUエコキャンパスプロジェクト」の中で履修学生のグループが「常盤台キャンパス ひとやすみマップ」を作成しました。屋外ベンチ・椅子の場所の地図と、各所の日当たりや視界の広がり、おすすめコメントなどを掲載しています。

マップを見た方々の好みや目的から「心地よい」と思える場所を選んでもらえるようにとの思いで作られています。屋外でのひとやすみに、是非ご利用ください。



## 第1食堂(れんが館)リニューアルオープン

4月3日(木)、平成26年度の入学式に合わせて、第1食堂(れんが館)がリニューアルオープンしました。

白い壁と照明が印象的な、明るく、窓の外の緑が気持ちいい空間になりました。

和食、洋食、中華、丼、カレー・ハヤシ、パスタ、ラーメン、うどん・そば、そして「おすすめ」の全9種類のコーナー(日替わりメニュー)で、新入生を迎えました。大学にお越しの際はぜひお寄りください。



Let's go

YNU!

## 第9回横浜国立大学ホームカミングデー(HCD)のご案内

第9回ホームカミングデーの開催日が決定しましたのでご案内いたします。

ホームカミングデーは、卒業・修了生、そのご家族、在学生、その保護者、教職員(退職者を含む)、地域の方々などの本学関係者がキャンパスに集い、旧交を温めるとともに、新たに親睦を深めることを目的としています。

例年ホームカミングデー当日は、メイン講演会、交流会を始め各種のイベントが行われ、それらのイベントへの参加を通して親睦が図られています。

ホームカミングデーは、本学関係者のみならず一般の方々にも開かれていますので、お誘い合わせの上お越しください。お待ちしております。



多くの方が参加したメイン講演の様子(第8回HCD)

毎年大人気の  
アンチエイジング  
体操



### 第9回横浜国立大学ホームカミングデー詳細

詳しくはこちら ホームカミングデーウェブサイト homecoming.ynu.ac.jp

開催日: 2014年10月25日(土)

## 卒業生・修了生の皆様へ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職(進学)先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。登録データの使用方法は以下の通りとなります。

- ・ 大学最新情報案内のメールマガジンの配信(月1回程度) ※希望者のみ
- ・ 本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
- ・ 登録情報を同窓会へ提供 ※承諾者のみ
- ・ YNUネットアドレス(生涯メール)の登録/確認

左記のこと以外の利用および提供は一切いたしません。また、関係法令及び本学規則等により個人情報として適正に管理し、使用いたします。

本趣旨と使用方法をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。

登録  
方法

パソコン・携帯電話より下記ページにアクセスしてください。

詳しくはこちら 横浜国大ウェブサイト → 「卒業生の方」 → 「卒業生・修了生データ登録」

https://www.jmk.ynu.ac.jp/graduate/



## YNUネットアドレスサービスのご案内

詳しくはこちら www.ynu.ac.jp/about/project/netaddress/

YNUネットアドレスサービス(生涯メールサービス)は、本学が、卒業生・修了生並びに学生及び教職員を対象として、在学・在職時から生涯に亘って利用できるメールアドレスです。

本サービスは、Microsoft社が教育機関向けに無料で提供しているメールサービス「Office365 for Education」を利用し、本学が公的に保有するドメインである「@ynu.jp」を付したメールの送受信を行うものです。メールサーバ本体の運用管理はMicrosoft社が行いますが、利用者管理は本学側が行うことになります。送受信は、主にウェブメールで行います。

YNUネットアドレスサービスのご利用は、左記の「卒業生・修了生データ登録システム」よりお申し込みください。